

日蓮門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)751-7181

平成2年1月15日
第8号

門連 結 成 三 十 周 年 記 念 事 業

二本柱の骨格固まる!!

京都理事会
十一月十六日
妙覚寺にて開催

平成元年度の京都理事会は錦繡の洛北、日蓮宗本山妙覚寺を会場に開催された。門連結成三十周年を明年にむかえるとあって、内容の充実した報告、討議が熱心にくり広げられた。中でも三十周年記念諸事業の決定は異体同心の盛り上がりをもたらし、また北海道門連結成、大阪門連活動状況の報告は、門下連合の輪の着実な拡がりを感じられた。

平成元年十一月十六日、京都は例年になく温暖、街中の樹々はまだ紅葉を帯びた葉をしっかりと保っていた。

当日ソ連の高官が京都を訪れるというところで、駅はもちろん、街中いたるところに警備の警官が立ち物々しい警戒ぶり。



白熱した討議のつづく理事会

諸事業の内容報告をみる!

記念講演の余韻まだだようなか、いよいよ理事会が開議された。座長には恒例により門連理事長・日蓮宗宗務総長の澁谷直城師が互選された。

座長は、本日の会議にあたり大阪と北海道に地方門連が結成された旨の報告と、明年に迎える三十周年の節目に向けての結末とこの二点を強調して座長就任の挨拶。

つづいて参加者全員の自己紹介。順順にすぎばきと進められ、一応全員の紹介が終了。がここで本日のため特別参加された大阪と北海道の両地区の代表者が事務局より紹介された。大阪日蓮聖人門下懇話会理事長伊丹栄彰師、北海道日蓮聖人門下連合会理事長白部健順師、同会常任理事若林宣竜師である。

伊丹、白部、若林各師が紹介されるや、会場からは大きな拍手が鳴り響き、遠来の同志の参加に惜しみない讃美の意が表された。

門連にとって今回こうしてあらたに大阪と北海道、また地元京都と三組織の地方門連が結集したことは一歩前進である。そしてこの一歩の歩幅は大きい。決して小さくはない。平成元年上半年事業報告は事務局の柴田幹事より淡々と報告された。

○理事会・常任理事会、○日蓮聖人門連だより「関係」、○地方門連結成関係、○人事、○事務局、の各項目つぎの報告事項は京都門連事業に

報されていること講演会開催も含めて力強い報告があった。講演会開催の詳細は門連時報を参照ねがいたい。

新結成はやほの北海道門連については同会理事長白部健順師が担当。これもまた七面の写報にゆずるとするが、現時点における参加状況はおしらせしておきたい。すなわち、法華宗真門流十五名、法華宗本門流九名、日本山妙法寺二名、国柱会六名、日蓮宗六十四名、計九十六名の参加を得ている。

北海道という地理上の問題点もあって、今のところまだ全道的な広がりは見せていないが、札幌地区を臍としてまずは位置づけ、ゆくゆくは全道に広げてゆきたいとの意向も合わせて表明報告された。

三十周年記念事業決定!

さて、上半期の事業報告が異議なく了承されたあとは、案件討議である。事前の二回にわたる常任理事会で詰められたテーマは、明年にひかえた門連結成三十周年記念事業内容についてのもの。

本日のクライマックスというか、真打ち登場か、ともかくいかなる事業内容が用意されているのか、固唾をのんで待ち受けた。

連合体としての活動には、自ら限界があることは百も承知している。一組織体が行う活動とはまた異った知恵を働かせて企画しなければならぬ。そんな背景をもち、最大効果が期待できる方法論となると、三十年にわたり築きあげてきた門連方式とも称すべきスタイルに落ち着かざるを得ない。その基底にどのような時代展開を付加してゆくのか、あれこれ思いをめぐらしていた。

そうしたなかで、発表された案は三本柱ともいべきものであった。

①は平成二年度の身延祖廟参拝時理事会をその奉告式典、各派管長親下の参加を仰ぎ大々的に挙行する。

②は平成二年度京都理事会を妙蓮寺において行い、合同して記念の行事に充て、追悼法要のあと記念講演会、そして大祝賀会を検討する。③三十周年記念誌を発行する。

從地涌出

◎平成二年の新春を迎えた。本年は午年である。◎馬という動物は、野生のままでは性質が粗暴で行動が荒く、いかにも自分の意欲を満たさんかのために、そのすぐれた体力にまかせてあちらこちら所かまわず駆け出し、疾走してやまないものだ。◎しかしこの野生の馬を飼育し、調教するならば、もともと判断力も記憶力もある利口な動物だから、従順になって人によくつき、人間の言葉や態度も理解するようになるので、人間にとってはたいへん便利な動物である。◎日蓮大聖人の御遺文の中にも馬についての観察があり、とくに大聖人が身延より召された栗鹿毛の馬に対する愛情が綿々と記されているが、馬は、昔から交通機関や軍用の騎馬として、また輸送や農耕に、あるいは競馬などに利用されてきたことはだれもがよく知るところである。◎仏典の中でも、四天下統一の理想的名君である転輪聖王が出現するときに掲げる七種の国宝中に、馬宝といって馬が入れられているほど、馬は人間の生活にとって重要至極な家畜であることはいままでもない。

◎さて、人間も、野生のままの凡人の心は、意馬心猿(いばしんえん)といつて、馬や猿の心のように落ち着きがなく、常に食欲、愛欲等の欲望に乱され、心外の世界を駆けめぐっていろいろなものを追いつめていく。◎だからこそ、私たち野馬のごとき凡人としては、心馬の調教に勤め、心の煩悩を調御し、強盛の信心をもって精進しなければいけないのである。(丈)

年頭の辞

日蓮聖人門下連合会理事長 澁谷直城

明けましておめでとうございます。門下連合会加盟の各派・各山・各聖におかれましては良い新春を迎えられたことと思います。

さて本年度は、日蓮聖人門下連合会が結成されて三十周年を迎えた訳でございます。振り返りますと、この昭和四十年の門下による祖廟輪番奉仕の実現、昭和五十六年の宗祖七百遠忌に係る数々のイベント、昭和五十七年の青年の

船の実施等、門下各派の宗旨を超越した形での連合体としての機能を大いに発揮してまいりましたことは、四海婦妙の祖願達成を願う日蓮聖人の門下であるという自覚に基き、なされてきたものと存じます。

近年、大阪・北海道地区の門連結成があり、また福井でも結成の動きがあります。地方門連とは更に連絡を密にし、発展のために互いに協力し合ってゆきたいものと思存します。

さて、三十周年を記念しての事

シリーズ 門下本山巡り ⑦ 本門佛立宗本山宥清寺



本門佛立宗本山宥清寺
京都市上京区一条通七本松西入 〒602 Tel 075-461-1166

佛立開導日扇聖人修学の地。口唱・聞法の道場として興隆

当山は、遠く延慶元年（一三〇八年）に高祖直第十八中老の一人越後阿闍梨日辨聖人によって開かれ、京都二条青柳定家（藤原定家）の末裔を教化し、定家の旧跡を寺院としたもので、もと青柳山本門寺と称し、京都に於ける日蓮門下最古の寺であります。

その後、応仁の戦乱を避けて丹波亀山（現在の亀岡）に移り、再び慶長四年（一五九九年）京都（近衛通）に帰ってからも、小川挽木町（慶長十六年頃）等、転々と移りましたが、元禄七年（一六九四年）京都御前通一条下るにあつた宥清寺を求め、「青柳山宥清寺」となり、鷲山寺から妙蓮寺の末寺となりました。

開導日扇聖人が、大津追分の第一回御法難（慶応四年七月）の後、明治二年、無住に近い宥清寺に佛立修学所として入寺され、此処を佛立講の根本道場と定め、弘通に当らるから寺門は急速に興隆してきました。

明治十三年には、翌年の高祖六百回御遠諱では、宥清寺を口唱の道場、親会場を聞法の道場として、一万数千人の参詣を受け入れてつとめられました。明治十六年、開導聖人は、

宥清寺の沿革

後事を第二世講有日開上人に委ねられて、自らは麩屋町のお館（現、長松寺）へ移られました。

昭和六年八月、高祖六百五十回御遠諱を迎えるに際して、下の森滝ヶ鼻町（現在の本山）に佛立講根本道場の御宝前をお遷しし合祀申し上げました。

昭和十六年三月佛立講に属する寺院教会を門末として、独立本山となりました。それ以後、本門佛立講は本門法華宗と宗門行政のうえでも独立した組織をもつに至り、独自の弘通活動を行うことになりました。

開導聖人御墓所について

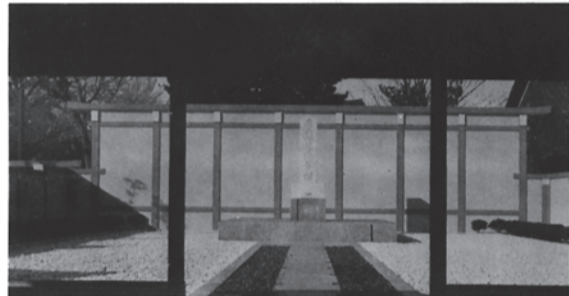
御前通り旧宥清寺跡には開導日扇聖人の御墓所があり、現在は佛立霊地と称しています。

当初は霊地の裏の墓地の一番奥に、開講以来共に御苦勞されたご信者方のお墓に囲まれていました。

そこには大導師御自ら墓碑を建立せられた墓所があり、即ち明治十九年七十歳の時、中央に自筆首題、両脇に本門八品上行所伝、如是本尊但願八品と刻して、裏面には明治十九年四月一日、長松清風生年七十歳建立と刻まれています。大導師ご遷化後、此処にご遺骨を納められたのであります。

明治・大正・昭和と本門佛立講は弘通拡大し、昭和三十一年に開講百年をお迎えました。

その数年前から本山中心主義が宗制によって具体化され、本山参詣、



佛立霊地開導聖人御墓

昭和二十二年に宗教法人令にもとづいて本門佛立宗が本門法華宗から独立し、昭和二十七年の宗教法人法の施行によって、宥清寺は本宗の宗制の中で、独立した本門佛立宗の本山としての地位、権威、伝統等が明文の規則をもって規定されるに至りました。

人の面においても、佛立第九世講有日聲上人の代に本山宥清寺の住職が講有位に就かれることとなり、それ以後の御講有は、晋山式を本山で挙げて佛立嗣法となられるのであります。

昭和二十二年に宗教法人令にもとづいて本門佛立宗が本門法華宗から独立し、昭和二十七年の宗教法人法の施行によって、宥清寺は本宗の宗制の中で、独立した本門佛立宗の本山としての地位、権威、伝統等が明文の規則をもって規定されるに至りました。

高祖手自開眼御霊像

重文国指定に至る概要報告

此度本山宥清寺「高祖手自開眼御霊像」が国の重要文化財の指定を受けました。（平成元年三月二十九日付 全国紙朝刊既報）

御霊像は、弘安二年（一七八八年）中老和泉阿闍梨日上人高祖御尊影をお刻みし、高祖御自ら御開眼せられ、すでに絶対の信仰の対象として宗門に伝承し、永年に亘って連綿と護持遊ばせられるところの宗宝であります。殊には開導聖人が、「清風の身体は本堂の生身の尊像の御ひさの下にあり、清風がたましひのすえ処乃至からだは尊像のみまへに合掌平伏す」とご指南お示しの如く、親しく尊信恭敬お給仕をせられた生身の御霊像であります。この御霊像は調査の結果、鎌倉後期の造像で、信仰対象としての説法像として定型化された我国日蓮祖師像の先駆的存在である、との見解を得るに至ったのであります。

これまで日蓮聖人の祖師像として、重文の国指定になるものは、東京池

ある大導師のお墓は余りにも簡素で「勿体ない」という声が多くなり始めたのであります。

昭和三十八年、第十五世講有に晋位された日開上人は、昭和四十一年、旧宥清寺跡にありました児童福祉法人積慶園を、さらにより環境の洛西桂、檜原の地に移転させ、昭和四十二年、旧宥清寺を解体した上で、積慶園の跡地に莊嚴し、昭和四十三年、裏の墓地から大導師のお墓だけお出まし頂き、佛立霊地としたのであります。

開導百遠諱ご正當の年をお迎えし、御墓所のご莊嚴について種々検討させて頂き、中央のお墓は現在そのまま、お墓の台石を広くして宝塔はお厨子形にし、四本の柱を建て、お墓の左右には燈籠、花立て、中央に香炉を莊嚴させていただき、玉垣を四方の基盤石の際に沿ってやや低い目にめぐらし、より一層の莊嚴をさせて頂くことになりました。（平成元年六月完成）

上本門寺の祖師像（像内銘より聖人ご滅後の御七回忌の砌、正応元年、一二八八年の造像）ただ一軀であります。ところが本門寺の御像は法衣のみでお袈裟を着せず、実物の法衣お袈裟をお着せする所謂着装像といわれる特異な存在なのだそうです。即ちお袈裟にある祖師の伝承が無い訳です。

こうして一方で傍証として集めた資料中の各本山や古い歴史を有する寺院の、各祖師像との比較検討と合せて、最終的に本山宥清寺の御霊像は、「信仰対象としての定型化された祖師像の優れた先駆的作例としての意義を有する我国最古の存在である」との位置づけがなされたのであります。

此度の御霊像の重文国指定は、こうした絶体の信仰対象の上に、さらに国の最高権威としての学術的評価が加わったことで、宗門永年の伝承が客観的に実証され、強いては開導聖人が御現たる御指南が、計らずも如実顕証せられることとなった次第であります。

旅する人のそばに 信頼のカード

「赤い風船カード」にご入会いただきますと自動的にUCハートカードの会員にもなり、キャッシングサービスやデパート、レストランなどで幅広くご利用いただけます。

心に届く。ひと味ちがう贈りもの。 日旅のギフト旅行券

こんな時、贈ったら喜ばれます。

- ◎金婚式・銀婚式の贈りものとして
- ◎敬老の日の贈りものとして
- ◎退職された方へのご慰労に
- ◎ご結婚される方にお祝いとして
- ◎入学・卒業の記念に
- etc.

【海外ギフト旅行券】
50,000円 100,000円の2種類
【国内ギフト旅行券】
1,000円 5,000円 10,000円の3種類

いい旅お世話の **日本旅行**

旅ごころ、かなえられます。 日本旅行の旅行券分割前払システム **ドリームプラン**

京都十六本山と 横川定光院巡拝 日蓮聖人をめぐる 京の旅

◎2名様からお申し込みができます。
◎JR列車を往復で201km以上ご利用になると、乗車券が割引になります(宿泊プラン利用の場合)。
◎宿泊は法華クラブ京都店を利用します。
◎団体(15名以上)のお申し込みには、JR列車の乗車券・料金など各種割引が適用になります。

*お問合せ・お申し込みは下記へ

●北海道●	盛岡(支) 0196-24-5826	藤沢(支) 0466-22-7411	直江津駅(旅セ) 0255-43-4581	長野(支) 0262-33-3141	米子(支) 0659-33-1811	●中国●	佐世保(支) 0956-23-5238
釧路(支) 0154-23-4455	秋田駅(旅セ) 0188-33-8444	新横浜(支) 045-473-7520	●北陸●	長松本(支) 0263-32-4619	松江大橋(支) 0652-22-0011	三原(支) 0840-62-6131	長門(支) 0958-24-5416
函館(支) 0155-23-9294	山形駅(旅セ) 0236-23-4766	水戸(支) 0292-24-6003	富山(支) 0764-33-1181	本田(支) 0268-24-7600	浜田(支) 0655-2-1729	呉(支) 0823-22-8111	長門(支) 0957-22-3660
旭川(支) 0157-23-2228	仙台三和ビル(支) 022-261-4511	高橋(支) 0282-23-3223	高岡(支) 0766-22-6141	飯田(支) 0265-22-3911	岡山(支) 0862-25-2046	広島中央(支) 082-227-1081	熊野(支) 096-354-4488
旭川(支) 0166-26-0401	郡山駅(旅セ) 0249-34-7711	高崎(支) 0273-22-3158	金沢(支) 0762-62-0411	那覇(支) 0265-72-5158	豊後(支) 0846-24-5131	岩国(支) 0827-22-3211	熊野(支) 0965-33-5717
岩見沢(支) 0126-22-1458	会津若松駅(旅セ) 0242-24-0200	大宮(支) 0486-66-1155	尾山(支) 0767-53-0238	豊後(支) 0532-54-3261	福岡(支) 0943-23-3513	徳島(支) 0834-22-1771	八代(支) 0975-38-1433
札幌(支) 011-241-5204	鶴岡(支) 0235-22-2238	柏千代(支) 0471-46-2511	七福(支) 0776-22-2736	名古屋(支) 052-52-5021	●四国●	徳島(支) 0866-22-5547	大分(支) 0982-33-3432
小樽(支) 0134-33-4455	●関東●	千代田(支) 0472-27-2307	敦賀(支) 0770-22-4472	土岐市(支) 0572-54-2131	●徳島●	高松(支) 0878-51-4981	宮崎(支) 0985-24-5255
苫小牧(支) 0144-32-6467	池袋(支) 03-986-1321	甲府(支) 0552-35-5252	●中部●	岐阜(支) 0582-65-7501	丸亀(支) 0877-22-4291	山口(支) 0839-23-0861	西鹿(支) 0992-52-2340
函館(支) 0138-23-4201	室町(支) 03-242-6671	●新潟●	沼津(支) 0559-62-4631	大垣(支) 0584-81-1188	伊予三島(支) 0896-24-2909	下関(支) 0832-23-9111	沖(支) 0988-62-3365
●東北●	新橋(支) 03-575-4441	村上(支) 0254-52-5234	●北陸●	●関西●	松山(支) 0899-45-0815	●九州●	
青森(支) 0177-77-3451	浦田(支) 03-733-8154	新潟(支) 025-222-1414	富山(支) 0542-54-8371	姫路(支) 0792-81-1067	宇和島(支) 0895-22-2642	北九州(支) 093-571-0222	
八戸(支) 0178-44-2241	川崎(支) 044-222-0701	三条(支) 0256-33-3111	静岡(支) 0542-54-8376	和歌山(支) 0734-24-2411	高知(支) 0889-83-1767	福岡(支) 092-431-7272	
弘前(支) 0172-34-4234	横濱(支) 045-641-9604	長岡(支) 0258-33-2463	松(支) 0534-54-4371	鳥取(支) 0857-23-1841		久留米(支) 0942-33-1546	

祝 門連結成 30周年

(順不同)

日蓮宗宗務院

管 長	岩間 日勇	教務部長	項岳 龍乘
宗務総長	澁谷 直城	護法伝道部長	吉田 宏遠
宗務副総長	金坂 信章	現代宗教研究所長	石川 教張
総合企画部長	河野 智彰	参 与	白部 健順
庶務部長	橋田 文啓	参 与	岡田 法順
財務部長	伊藤 速雄	日蓮宗新聞社社長	千野 信和

〒146 東京都大田区池上一―三―一―五
電話 〇三(七五)七―八一(代)
FAX 〇三(七五)七―一八六

法華宗(本門流)宗務院

管 長	藤田 日浄
宗務総長	川口 善教
教学部長	木村 日應
庶務部長	大塚 正信
教化部長	中村 宏龍
財務部長	芹澤 泰謙

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(九一)〇(四七五)代
FAX 〇三(九一)八(七九九)四

顕本法華宗宗務院

管 長	古瀬 日宇
宗務総長	吉永 正晴
宗務次長	山田 信正
財務部長	飯澤 道宣
布教部長	山本 学人
教務部長	平田 浄應
社会部長	田島 敏義
庶務部長	島田 幸晴

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九)七―一七―一

法華宗(陣門流)宗務院

管 長	野口 日騰
宗務総長	牧野 琢成
総務部長	土屋 善敬
教学部長	都築 哲信
教化部長	金原 戒雄
財務部長	江坂 隆俊

〒170 東京都豊島区巢鴨五―三五―六
電話 〇三(九一)八(七二九)〇
FAX 〇三(五七)六(〇一一)一

本門佛立宗宗務本庁

講 有	梶本 日裔
講 尊	小山 日幹
宗務総長	井上 日慶
宗務副総長	齊藤 日敬

宗務本庁役員一同

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東笠町二〇番地
電話 〇七五(四六)一―一六(代)
FAX 〇七五(四六)四―五五(九)

日蓮本宗宗務院

管 長	嘉儀 日有
宗務総長	住友 顕一
教学部長	今村 要道
法務部長	今村 要道
財務部長	矢田 尚義

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七)三―三三―九〇

法華宗(真門流)宗務庁

管 長	上田 日源	参 与	吉田 勝秀
宗務総長	吉田 研宏	参 与	上田 浩岳
総務部長	長鎌 泰信	教学主事	小島 玄城
教学部長	上嶋 智岳	教化主事	岩崎 峻暉
教化部長	左神 信学	財務主事	笹木 研秀
社会部長	蓑輪 溪玉	書記	矢放 真文
財務部長	小西 法明	書記	矢放 真文

〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四)一―五七―六二

本門法華宗宗務院

管 長	佐野 日紀
宗務総長	吉村 信尚
宗務部長	高辺 誠亮
財務部長	山下 通雄
総務部長	信隆 允忠
庶務部長	飯田 信栄
教化部長	藤井 宏長
教務部長	木村 光紹

門連常任理事

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺
電話 〇七五(四五)一―三三―五二七

宗教法人 国柱会

会 長	田中 香浦
理事長	加倉井 清信
副理事長	中平 千二郎
門連常任理事	大橋 邦正

〒132 東京都江戸川区一之江六一―九一―八
電話 〇三(六五六)七―一一(代)
FAX 〇三(六五六)九―九八〇

日本山妙法寺

首 座 上野 行量

〒542 大阪府中央区南船場一―三一―一
電話 〇六(二六)一―三三―二六

京都日蓮聖人門下連合会

会 長	中村 日宣
副会長	沖 日亨
理事長	松下 日肆
副理事長	藤田 尚慈

〒602 京都府京都市上京区寺ノ内通大宮東入
堅樹院
電話 〇七五(四三)二―〇四九一

門連結成三十周年

意義ある年 をむかえる に当って2

日蓮聖人門下連合会常任理事

大橋邦正

昭和47年4月22日東京新宿文化センターにおけるオラトリオ「日蓮聖人」の発表演奏会。



心淋しい輪番給仕の現状

昭和三十九年、連合会の規約に「たわわに現れる「祖廟中心」の精神を如実に体現すべく、身延祖廟輪番奉仕の門下各派による、給仕の実現について協議がなされ、その年五月十五日、各派代表は身延に参集、身延山久遠寺における輪番奉仕行軌の視察を行った。日蓮宗、身延山当局においては、ひろく「門下の輪番奉仕実現のため、これまでの祖廟輪番奉仕に関する宗制の一部を改正して、ご門下各派が各派独自の法義によって輪番給仕に専心する門をひらいた。連合会はこの趣旨にそって、連合会を代表する資格のもとに、各派は公式代表をもって祖廟輪番奉仕を奉行しよう」という申合せを行った。

昭和四十五年は、日蓮聖人竜口法難七百年の記念すべき年にあたる。聖祖法難の重要な意義を味識し、ひろく世に御法難の意義を顕彰すべく、「日蓮聖人竜口法難七百年記念大会」をこの年九月十三日、東京九段会館において開催した。さきの日比谷大講演会に次いで、門下連合会主催による大会である。この日、在京各派に属する護法志にもゆる面々数百が一室に会した。大会は、国柱会関口宏師の開会宣言にはじまり、第一部「講演の部」は日蓮宗宗務総長片山日幹師の挨拶につづいて、「日蓮と神々」と題して真如会主幹野一義氏、仏立宗教学委員

多大な成果をあげた聖伝劇

昭和四十七年以降しばらくは大きな共同事業はなかったが、これまでの聖祖七百遠忌をお迎えするに際して準備の論議が専らであった。そのために門下連合の実をあげるべく内面の充実を注いだ。門連組織の拡大充実をめざして、「題目系教団の門連加入問題」や「東西門下連合会」の組織化などが、真剣に討議されたのもこの頃である。

聖祖七百遠忌の四大事業

昭和四十七年以降しばらくは大きな共同事業はなかったが、これまでの聖祖七百遠忌をお迎えするに際して準備の論議が専らであった。そのために門下連合の実をあげるべく内面の充実を注いだ。門連組織の拡大充実をめざして、「題目系教団の門連加入問題」や「東西門下連合会」の組織化などが、真剣に討議されたのもこの頃である。

昭和四十九年、これまで日蓮聖人門下連合会が東京に本部を置き、門下各派および教団の連絡、協力、団結を目標に、共同事業など活動が続けられてきたが、一方、京都には十六本山を基盤とする京都日蓮聖人門下連合会が、つとに存在していることから、来るべき日蓮聖人七百遠忌を期して東西両門連はおのずから大同団結する気運となった。

この年の十一月二十七日、京都顕本法華宗総本山妙満寺において、日蓮聖人門下連合会（理事長渡部公允師以下理事各聖二十名）、京都日蓮聖

演奏され、つづいて国柱会芸術部出演による聖史劇「土の牢」を上演、いずれも満場を魅了した。終りに法華宗門流宗務総長水本大岳師の力強い閉会の辞をもって、意義ふかき記念大会を閉了した。

昭和四十六年が日蓮聖人降誕七五〇年に当たることから、連合会はこの佳年を慶讃して、芸術をもってひろく大衆に聖祖を正しく讃仰せしめるべく、世界悉く攝化の益における演劇をもっての啓蒙を志し、「聖伝劇・日蓮聖人」の明治座公演を企画し、脚本池波正太郎、主演松本幸四郎により同年四月三日より一カ月公演とし東京明治座に興業、在京各派は檀信徒をはじめひろく一般にも宣伝し、多数の観劇動員をはかり各派それぞれ総見を行うなど、多大な成果をあげたのみならず、この事業の成果により余慶として連合会基金もできたのである。

この芸術伝道の試みは、のちに聖祖七百遠忌報恩記念事業の一環として、前進座による聖伝劇全国二カ年公演に結実していったのである。

第四は昭和五十七年四月、報恩事業の挿尾を飾る、オラトリオ日蓮聖人の発表演奏会であった。オラトリオ日蓮聖人の制作は、日本仏教界はもとより、世界の宗教界においても空前絶後の歴史的金字塔である。まさに闊歩一聖たる聖祖を讃仰し、報恩の万一に資するにふさわしい記念の聖業であった。

この聖祖七百遠忌を記念する報恩四大事業が、すべて諸縁吉祥裡に成満するに至ったことは、ひとえに仏祖の御加護のもと、門下連合会が異体同心の至誠を結集した賜であり、撃節讃歎して協力を寄せられたあまた関係各位の熱誠なる志によるものと銘謝するものである。

昭和天皇御宸筆「立正」金箔額入

昭と天皇より下賜された「立正」額（実物大四分の一に縮尺複製したものです。）皆様のご家庭へ特別頒布頒布金額 色紙共八千五百円（送料共）（残部僅少）

お申し込みは 日蓮宗新聞社 電話 03-755-5271 FAX 03-753-7028 〒146 東京都大田区池上3-16-9

平成元年度
身延 京都 理事会 報告

祖廟に肅拝、異体同心を表白!

平成元年度、恒例の祖廟参拝・身延理事会は六月十三日(火) 挙行された。

午前十一時五十分、常唱殿前より唱題行列を組み、まず御草庵跡へ参進、法味言上のち祖廟前に於いて熱誠なる法要が挙行された。

滋谷理事長導師のもとに自我偈・玄題が唱えられ、日蓮聖人門下連合に向け、報恩の誠がつけられた。

その後に行われた各派代表の焼香は、眼前にいます聖人に対し異体同心の姿を表現申しあげたことと、聖人も快くその微誠をおくみとり下されたであろう。

祖廟をあとにした一行は、次に久遠寺祖師堂、大本堂に詣り、宝物館を拝観、本日の理事会会場である身延山短期大学図書館会議室に入り、昼食をとった。

食後、水鳴楼にて岩間日勇院下よりの御挨拶を受け、午後二時二十五分より理事会が開かれた。

◎報告、承認、決定事項



身延理事会(祖廟参詣)

- 1、昭和六十三年度事業報告
○理事会、常任理事会報告。○「日蓮聖人門連だより」関係報告。○人事関係報告。○地方門連準備関係報告。○事務局人事報告。
- 2、昭和六十三年年度決算の件
右は承認
- 3、平成元年度予算の件
右は承認
- 4、地方門連結成準備に関する件
右については、吉永正晴常任理事より「大阪日蓮聖人門下懇話会」の報告があった。その大要は昨年十二月十一日、大阪雲雷寺にて発会式が開催されたこと申し込み者は現在約六十名。理事長は交代制とし、初代理事長に伊丹栄彰師(日蓮宗、副理事長に吉永常任理事が就任したこと等である。また柴田幹事から北海道地区の動きにつき報告があった。その大要は昨年二回事務局が訪問し、現地の関係者と折衝の結果、「北海道日蓮聖人門下連合会」が仮発足した旨である。
- 5、門連だより刊行に関する件
大橋常任理事より第七号発刊について、特に門連結成三十周年記念を中心に編集している旨の報告が行われた。また第八号刊行にあたり、各宗派、本山の協賛

広告を含めた各聖の協力を願う要請もあった。

6、門連結成三十周年記念に関する件。
記念事業に対し種々提案がなされてきたため、去る五月十五日に開催された常任理事会において、①記念法要と祝賀会の開催、②記念誌の刊行。の二点に絞ったことが報告された。この報告

三十周年記念誌刊行に取組む!

平成元年度の京都理事会は本紙第一面に詳報されているが、門連三十周年を明年にむかえるとあって、例年にも増した活発な討議が展開され



京都理事会(妙覚寺書院にて)

に対し意見が多数だされ結論に至らず、再度常任理事会で検討し、京都理事会へ提案していくことで合意した。

以上

種々白熱した議論は止まるどころを知らなかったが、予定の時間も追ったため、午後四時四十分、閉会が宣せられた。

この決定を見るに至った経緯は、去る十一月十三日に行われた門連だより編集会議の席上、大橋常任理事から編集委員会に対して打診があり、編集委員会一同その任に当たることに同意をする意志表示をうけてのものであるが、これが正式決定を見るに至ったわけである。

今のところ、具体的な編集企画はまだ出てはいないが、平成二年に入り早速に常任理事会による招集がかけられ、第一回目の会合がもたれる予定である。

門連当局としては、さきに全日仏(全日本仏教会)が昭和六十二年に発行した「全日本仏教会の歩み」を手本として製作にかかる心算であるが、限られた予算の中で、これを凌駕する立派な記録誌を完成させるため、編集委員会に期待するところ多大なものがある。

尚、実務レベルは門連だより編集委員会が担当するが、その委員会の指導的役割を果たすため、常任理事会に三十周年記念誌刊行の企画会議を設置したい旨の報告を併せて大橋常任理事より行われた。

常任理事会の企画会議と一体となつて、立派な記録誌が完成するよう頑張っていたいただきたい。

紙の紹介 法華宗真門流 慧光 輪寶

2



高祖開祖の御心にかたがう 合掌しあう友をつくらう

◎歴史に何を学ぶのか、古くて新しい課題である。歴史は過去に展開された人間や社会国家の営みを事実にもとづいて記録したものの集大成にすぎないとする説もあるようだ。しかし、歴史は、たんなる記録の集成だけではすまない何物かを持統している。

◎その何物かは時には現代を根底から覆すエネルギーを爆発させる猛々しさをも持ち合せている。

◎今回ご紹介する法華宗真門流機

関誌「慧光」は、そうした歴史の何物かを垣間見せてくれる。それが同流の総本山本隆寺が時あたかも開創五百年を迎えたこととはもちろん無関係ではない。五百年のつ歴史の重みが誌面ににじみでているのだ。

◎たとえば、同誌の最近号(七十六号)には、「明治天皇と本隆寺」と題した記事が掲載されている。ここには、本隆寺の開基日真和尚の家系が、明治天皇の御母である一位局に直結してきている旨が要

領よく記されている。こうした歴史の連続性の重みが、ときに水面上にあらわれてくるのが、本誌の大きな特色といえる。

◎光輝ある歴史を現代的にどのようからめてカラーを打ち出すべきか、このテーマに対して、同誌は工夫がこらされている。まず、巻頭には「法華経のお話」が同宗管長の林日圓院下自ら筆を執って連載されている。経文解説の前に日蓮聖人の御遺文を置き、経文を遺文とタイアップさせ、現代の問題として捉えることで結論としている。

◎その他にも表紙と連動した「本宗のお寺訪問」や「宗内ニュース」〈教区ニュース〉など報道も盛り込まれ、読みやすい編集になっている。(年四回発行)

◎同宗では、本誌の他に教學誌として「輪寶」も刊行されている。

ホテル 法華クラブチェーン

札幌店 ☎(011)221-2141	大田店 ☎(06) 313-3171
仙台店 ☎(0138)52-3121	大阪店 ☎(082)248-3371
弘前店 ☎(0172)34-3811	広島店 ☎(0859)45-3111
仙台店 ☎(022)224-3121	境港マリンホテル ☎(093)531-5531
上野池之端店 ☎(03) 822-3111	小倉店 ☎(092)271-3171
上野駅前店 ☎(03) 834-4131	福岡分店 ☎(0975)32-1121
藤沢店 ☎(0466)27-6101	熊本店 ☎(096)322-5001
京都店 ☎(075)361-1251	鹿児島店 ☎(0992)26-0011
●海外店	法華旅行開発 ☎(03) 834-2576
インドラージギル店	●本社 ☎(075)371-6606

フリーダイヤル 0120-123-489 総合予約センター ☎11-272-4893(札幌) ☎03-823-4893(東京) ☎082-246-4893(広島) ☎092-281-4893(福岡)

さわやかな朝 心をつくすホテル 法華クラブ

横川定光院参拝と京都本山めぐりの お問い合せ・お泊りは 法華クラブ京都店をご利用ください。

京都駅烏丸中央口正面 〒600 〇七五(三六一)二二五

日蓮聖人御修行の霊跡 比叡山横川華芳谷

日蓮聖人「立正安国の像」

定光院

祝門連結成30周年

<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 新潟県三条市西本成寺一丁目二〇 電話 〇二五六(三三)〇〇〇八</p> <p>賞 首 野口日騰 執事 長 真保行宣 執事 笹原壯玄 執事 西山英仁 執事 平井良光 執事 佐古弘文</p>	<p>顕本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九)七一一七 FAX 〇七五(七九)七二二六</p> <p>賞 主 古瀬日宇 総務 山田信正 執事 平田浄應 執事 三坂岳應 執事 津村乗信 執事 安東靖弘</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 東京都大田区池上二丁目一一一 電話 〇三七五(二二)三三一一</p> <p>賞 首 田中日淳</p>	<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六(二二)〇一一一 FAX 〇五五六(二二)〇九九四</p> <p>法主 岩間日勇 総務 望月一靖 役員 一同</p>
<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒602 京都市上京区一条通七本松西入流ヶ鼻町一〇〇五一一 電話 〇七五(四六)三三四六二二〇(代) FAX 〇七五(四六)三三四六二二〇</p> <p>住職 十九世 梶本日裔 事務局長 小倉徳治郎 信徒総代</p>	<p>日蓮宗 本山要法寺</p> <p>〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八 電話 〇七五(七七)三三三九〇</p> <p>賞 首 嘉儀日有 執事 長 住友顕一 執事 今村要道 執事 矢田尚義</p>	<p>本門法華宗 大本山妙蓮寺</p> <p>〒602 京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八五 電話 〇七五(四五)一三三二五二七</p> <p>賞 首 中村日宣 執事 長 松下日肆 役員 一同</p>	<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 京都府京都市上京区智恵光院通り五上ル紋屋町三三〇 電話 〇七五(四四)一五七六二</p> <p>賞 主 上田日源 執事 長 上田浩岳 執事 小島玄城 執事 岩崎峻暉 執事 笹木研秀 書記 矢放真文</p>
<p>日蓮宗大本山 北山本門寺</p> <p>〒418-01 静岡県富士宮市北山重須 電話 〇五四四(五八)一〇〇四</p> <p>賞 首 片山日幹 執事 長 田中慈潮 筆頭執事 本間正晃</p>	<p>日蓮大聖人御靈跡 日蓮宗大本山 本圀寺</p> <p>勅諭にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の靈跡</p> <p>〒607 京都府京都市山科区御陵大岩町六 電話 〇七五(五九)三九一九一</p> <p>賞 首 水谷日諦 執事 長 玉田学雄</p>	<p>日蓮宗大本山 妙顕寺</p> <p>久遠成院日親上人御靈窟</p> <p>〒602 京都府京都市上京区寺ノ内堀川東入 電話 〇七五(四一)四〇八〇八</p> <p>賞 首 沖日亨 執事 長 山田一光 本山土主賞 原光司</p>	<p>立教開宗之靈地 日蓮宗大本山 清澄寺</p> <p>別当 小林日芳</p> <p>〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄 電話 〇四七〇九(四)〇五二二五</p>
<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大薮町九六 電話 〇七五(七七)二〇五六二</p> <p>賞 首 金子光瑩 参与 土屋学周 同 新井智清 同 山田完修 執事 補 藤井照源 同 川合陽雄 同 二之部知孝 東京執事 田村宏祐</p>	<p>日蓮宗本山 立本寺</p> <p>賞 主 細井日苑</p> <p>公元一九九〇年十月十三日 開山日像菩薩御遠忌奉修</p> <p>〒602 京都府京都市上京区北野一番町一〇七 電話 〇七五(四六)六六一六</p>	<p>日蓮宗本山 本法寺</p> <p>重文涅槃図長谷川等伯筆 名勝巴の庭本阿弥光悦作</p> <p>賞 首 金山寛成</p> <p>〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル 電話 〇七五(四四)一七九九七</p>	<p>日蓮宗大本山 法華経寺</p> <p>賞 首 長瀬日還 参与 関観康 同 小倉俊明 同 新井智清 同 植田觀泰 同 廣野觀順 執事 長 渡辺行俊 同 同 同 同 同</p> <p>〒272 千葉県市川市中山二丁目一一一 電話 〇四七三(三四)三三三三</p>

門連時報

大阪門連総会・講演会決まる

「市民大学講座」の事例発表のち懇談会

昭和六十三年十二月十一日の大阪日蓮門下懇話会結成総会以来、約一ヶ月が経過していった。

本部役員一同種々検討を加えるため、去る平成元年九月八日午後五時より、雲雷寺事務所にて、役員会議を開催した。

出席された理事は、日蓮宗伊丹榮彰理事長、顕本法華宗吉永正晴副理事長、日蓮本宗高橋勇夫理事、法華宗真門流長鎌泰信理事、陣門流門谷光瑞理事、国柱会麻田正廣理事、日蓮宗神谷行宏理事、三田村宗鳳理事、藤田文明理事、有光友信会計、以上十名に依り、今年度行事について話し合った結果、総会を兼ねて講演会を開催する事となった。

講演、講師の選択、会計費用等の問題を相談の末、現在日蓮宗大阪府事務所主催に依り、市民大学講座が、平成元年四月第三土曜日より、八月は休んで第五回まで盛大に開催された内容を踏まえて、事例発表を一時間にわたって御願する事となり、

精神的に荒廃した現代社会、時代の指標を見失った現代社会に法華経・日蓮聖人の宗教（信仰と思想）を知らしめたい。この熱意が実現しました。開かれた社会に、ひろく訴える事は勇気が要りますが、宗教者として、厳しい自己批判を辞さない決意をしたいと思います。



講演、午後六時より懇談会、以上の

市民大学講座

法華経・日蓮聖人に学ぶ

●日時 平成元年4月22日より開講

●会場 大阪市中央区中寺1丁目4-4 雲雷寺

●日程 講座2時~4時(受付1時より)

月日	講座	月日	講座
4/22	法華経とは何ぞの経典か	10/21	法華経とは何ぞの経典か
5/20	法華経とは何ぞの経典か	11/18	法華経とは何ぞの経典か
6/17	法華経とは何ぞの経典か	12/16	法華経とは何ぞの経典か
7/22	法華経とは何ぞの経典か	1/20	法華経とは何ぞの経典か
8	法華経とは何ぞの経典か	2/17	法華経とは何ぞの経典か
9/16	法華経とは何ぞの経典か	3/17	法華経とは何ぞの経典か
		4/21	法華経とは何ぞの経典か

●宗旨・宗派・年齢・性別は問いません。どなたでも参加できます。(無料)

主催 日蓮宗大阪府事務所

要領で決定を見るに至った。現在開講の市民大学講座は成功裡に進んでおり十一月で第七回を終了した。毎回本堂は満席で、遅れて出席された方々は客殿に於いて、ビデオを通じて聴講されている。幸いに雲

雷寺会場にはビデオ設備が整っており、本堂の中二階には、ミニスタジオが設置されて、客殿庫裡の各テレビに放映できる様なシステムになっていて誠に幸いである。以上を以って報告にかえさせて頂きます。

北海道門連設立総会挙行政

大阪門連と共に地区門連の魁

十一月十五日北海道日蓮聖人門下連合会設立総会が、札幌東急インに於いて盛大に開催された。白部健順発起人代表(日蓮宗札幌顕本寺住職)はじめ各派発起人各師の昭和六十三年十一月の発足予備会(門連だより

第六号に既報)以来一年に亘る労苦がここに結実をみたわけである。札幌、小樽地区を中心に全道より九十六名の参加入会者の内、約四十名が参加して開催された設立総会は、白部発起人代表による設立に至るまでの経過説明に始まり、発起人会で検討された「北海道日蓮聖人門下連合会規約案」が上程され、一同賛意をもって承認された。ついで、理事長白部健順以下、常任理事、理事、監査、会計の各役員が選出され、役員を代表して白部理事長が「北海道開教以来の各派互助と先師の苦勞を思う時、各派一同異体同心を旨として四海無疆の實現と會員の親睦を目的としたこの会が、今後北海道全土に広まることに努力し、併せて全国門連への早期加盟を實現したい」と挨拶し、審議を終了した。

つづいて開催された懇親会は日蓮宗土屋啓電師の発声による乾杯で宴を開き、出席者それぞれの自己紹介、門連発展に向けての決意表明がなされ、国柱会井上佐氏の万歳三唱により和気藹々の中に会を閉じた。



当日参集した役員の写真



本山要法寺昭和の大改修なる

「昭和の大改修」の旗印の下、昭和六十二年六月に着工した本山要法寺本堂、引き続き六十二年九月に着工

した開山堂の大屋根全面修復は平成元年八月に全ての工事が完了し、同年十月十三日両堂完工式を厳修した。



本山(上)と開山堂



本山(下)

当日は十二時半より法中と本山総代による庭儀式に始まり、十三時から本堂にて高祖日蓮大聖人第七〇八年報恩法要を引き続き本堂・開山堂屋根修復工法要の後、開山堂に移り修行、再び本堂に戻り、修行業者への感謝状贈呈があり、貫首上人親下の御礼のご挨拶をもって十四時三十分で成満した。

法要終了後、記念撮影があり、そのあと大書院にて賑やかに祝宴が催された。要法寺本堂は、入母屋造り、本瓦葺き、総檜造り、屋根面積一、四五〇㎡(約四四〇坪)で天文四年(一五三三)第二十七世日蓮上人の代に発起され、安永三年(一七七四)第三十世日蓮上人の代に落成、この間四代にわたる歴世と三十五年の歳月をかけて建立された。

開山堂は、重層とよばれる二重屋根の入母屋、唐破風向拜付き、総檜造り、本瓦葺きで、特に上層の屋根は二軒扇垂木(垂木が棟から軒先きへ放射線上にならんでいる)特殊建築で屋根面積は四四六㎡(一三八坪)あり、文政十三年(一八三〇)第三十四世日蓮上人の代に建立され、当初は「本堂」と称され、今の本堂は「祖師堂」と呼ばれていた。大正四年(一九一五)にそれまで客殿に奉安されていた日蓮上人の御像をこの堂にお移しし、以後御開山日蓮上人をまつる「開山堂」と改められた。

建立以来本堂は二百余年、開山堂はおよそ百六十年を経て、両堂大屋根の老朽化が著しく、修復の止むなきに至った。

全門末の檀信徒並びに有縁の方がたのお力によって、ここに完工式を迎えることが出来た。

青空の広がったこの日、講有日蓮上人導師のもと、全国寺院教会の住職・担任事務局長が参列して、法要は午前十時半より昼すぎまで奉修された。

修了後、午後一時半より本山の隣り「京都こども文化会館」において、当宗が作曲を依頼し、先に東京サントリホールで初演奏された芥川也寸志氏の遺作、日蓮聖人奉讃歌(副題、いのち)の発表演奏会が外山雄三氏指揮による大阪フィルハーモニー公響楽団によって行われ、つめかけた聴衆に大きな感銘を与えた。

こういつた法要の外、本山の高祖手自開眼の御遺像が国の重要文化財に指定を受け、また佛立センター用地も入手、あとは本年五月の連休九日間を使得っての総修大法要をお待ちするばかりとなっている。

また、従来のお寺での奉修から、外に向って会館やホールを使用する所が多く別修法要に併せて、佛立文化講演会が開催された。また開導百遠諱を記念して開導聖人のご一代を映画化した、「風の門」の上映も各地で行われた。

佛立開導日扇聖人百回御遠諱について

昨年、佛立宗にとつてはとりわけ大切な年であった。それは勿論開導日扇聖人の百回御遠諱御正當の年であったからである。

一昨年、昨年と二年にわたって全国布教区で別修法要が奉修され、各地で弘通促進大会や下種結縁運動が繰り広げられた。

また、佛立宗にとつてはとりわけ大切な年であった。それは勿論開導日扇聖人の百回御遠諱御正當の年であったからである。



宿清寺における法要

各派・教団 短信



本門佛立宗

●佛立第十九世 講有日裔上人は、開導百遠諱ご正当年の平成元年までに全国二十九布教区と海外弘通区三拠点での「別修法要」を勤められ、全ご巡教を無事円成された。

●本年4月28日より5月6日の9日間に亘って、佛立開導日蓮聖人の百回御遠諱「総修大法要」が、京都の本山有清寺を第一式典会場に、伏見パルスプラザを第二参詣者集合イベント会場として奉修される。

●全国からの参詣申し込みは、平成元年12月末現在、凡そ五万八千人との事で、特別局では「六万人の参詣者受入」の為に、京都市交通局との折衝等、大詰めの準備に奔走している。

●特別局の総修本部では、総修の意気高揚の一助として、ビデオ佛立ニュースを、弘通局では下種結縁リーフレット等を製作し、全国寺院に配布、各局とも活発な動きを見せている。

●恒例の全国一斉「寒参詣」が、1月6日より2月5日までの一カ月間行われている。本年の統一テーマは、「如説抄の身説」で、高祖日蓮大士の如説修行抄をテキストに、三十日間の連続法門を、全国の寺院で同時に行い、延べ百万人の檀信徒が聴聞することになる。(深沢泉奥)

本門法華宗

●宗務院、学院 本山の合同主催による教学研修会が昨年11月27日より11月29日の3日間、四国、淡路地区で開催された。

●この研修旅行も4回を重ね、その意図とする研修地に於ける先師聖人の

京都門連

●御降誕会、2月16日本年度当番本山本満寺に於て法要。導師本山本満寺貫首三好電神現下。法話総本山本満寺貫首林日圓現下。「宗祖御降誕と法華経」について。

●立教開宗会、4月27日比叡山大講堂に於て法要。導師本山山妙顕寺貫首沖風亀現下。法話日蓮本宗教学部長今村要道上人「爪上の土」。引き続き村雲門跡瑞竜寺参詣。バス五台にて盛会。

●夏期大学、8月26日日本能寺会館に於て、主題「平成を生きた」として、講師本山山妙覚寺貫首関根竜雄現下「娑婆即寂光をおもう」と題して、大本山池上本門寺執事市川智康上人「宗祖のぬくもり」身延山短期大学教授高橋亮昭先生「法華経の故郷を求めて」。

●御会式、10月7日大本山本能寺に集合。僧侶のみにより本山山頂妙寺造法鼓唱題行進。頂妙寺に於て貫首金子光登現下導師により報恩法要奉修。引き続き本山要法寺貫首嘉儀日有現下の法話あり。(藤田尚慈)

日蓮宗

●副総長森忠遠 師は、平成元年12月11日退任。後任に総合企画部長の金坂信章師が就任。尚、総合企画部長の後任に河野智彰師(大分県親敬寺住職・前宗会議員)が就任した。

●永年門連幹事を勤めた富川孝恭師がこのたび退任した。

●また北原輝信師も幹事を退任し、後任に小川信正師が就任した。

●12月6日の任期満了による、宗会議員の選挙が11月20日に投票が行われ新議員が選出された。これに伴う特別宗会が、12月19日に行なわれ、新議長・副議長・各委員会の構成が承認された。

●正法1月1日号(48号)(特集:時問と暦)が発刊された。(望月康史)

●2月から毎月一回妙宗大靈廟供養会後に田中香浦会長より「観心本尊抄」講義がおこなわれた。

●4月28日、30日、第59回身延登詣団に於いて第25回身延大祖廟輪番給仕団柱会奉仕がおこなわれた。

●5月8日、ソウルにおける李方子元妃殿下ご葬儀に、田中会長名代として大橋富士子講師が参列。

●5月28日、国柱会本部で真世界文化研究院主催にて研究発表会。

●7月7日、9日、佐渡霊蹟参拝の旅。とくに韓国から12名が参加。

●7月から、報恩行のため謹刊された「昭和天皇の御製」の普及運動が展開された。各界有識者等への施本をはじめ各地で頒布活動がおこなわれた。9月からは毎週日曜日に靖国神社にて活動(現在7万部普及)。

●7月28日、30日、賢島で全国若人の集い伊勢大会を開催。

●8月4日、8日、ソウルで第10回日韓仏教文化交流大会が開催され、田中会長以下が参加した。

●8月中、第37回少年少女夏期学校を小湊で開校。北海道、近畿、九州の各地方でもおこなわれた。

●9月15日、16日、本部で日蓮主義

国柱会

●11月7日、8日、本部で教学を学ぶ集いを開催。

●10月12日、恒例の池上本門寺境内における屋外宣伝。

●11月11日、12日、全国協議会。

●11月16日、17日、田中智学先生第51回忌報恩大会開催。(秋場善弥)

●第11回日什門流懇和会開催。

●恒例の日什門流懇和会が、京都総本山山妙満寺を会場に、去る10月17日18日の両日に亘って開催された。

●今年、顕本法華宗が当番で歴代先師御報恩法要をお勤めした後、日蓮宗(日蓮宗在籍日蓮宗)側より教学講習の講師として、新進気鋭の山口裕光師が「本多日生上人と田中智学居士の盟契」と題して、日頃の研究成果の一端を発表され、近世の法華御門下の傑出した両師の、門流統合という一大理想に共感しながら、相互交流の実績をあげられた、その足跡を回顧されながら、その御精神を継承し、現在に問い直さるという御提言に、参加者一同大いに認識を新たに、有意義な懇和会であった。

●僧員布教研修会開催。

●顕本法華宗全僧員を対象とした布教研修会が、関東、関西教区に分けて、10月12日、11月21日の両日に分けて開催された。

●今年、御開山日什大正師第六百遠忌を平成三年に控え、「我等の今成さねばならぬこと」というテーマにて討論会を企画し、併せて、古瀬日宇管長現下より、御遠忌へ向けての特別布教に対する心がまえが御教示され、引き続き、昨夏夏南米ブラジルに開堂された海外布教所顕本寺の教化現況報告が、担当の山本学人布教部長より報告され、将来的展望も含めた御遠忌体制へ向けての布教強化方法が研修された。(朝倉俊幸)

日蓮本宗

●去る10月13日 秋晴れの下山本山要法寺に於て本堂・開山堂大屋根修復完了式(詳細は七面)が厳修された。尚、落慶法要は、平成6年5月8日御開山日尊上人第六百五十遠忌をトして厳修する予定である。

●昨年7月10日を以て当局任期満了であったが、屋根修復完了式奉修の為任期を十月末まで延長。

法華宗真門流

●総本山本満寺 貫首林日圓現下 退山報告・法燈継承式が厳修される。9月11日、総本山法隆寺本堂に於いて、五ヶ年の任期を円成された林日圓現下の退山報告法要が執行された。引き続き、新貫主に推戴される姫路妙行寺住職上田日源現下へ、御開山日真大和尚御着用の御九条、勅許御印が引継がれ法燈継承式を終了。参會者一同は、舞鶴本行寺まで御見送り、舞鶴グランドホテルにて、任期円成祝賀会に参列、盛大裡に幕を閉じられた。任期中、昨春は総本山開創五百年大法会を厳修され、特に三天皇追福法要には、天皇陛下より御菓銘「手折さくら」御下賜の栄に接せられた。さらに本年、昭和天皇崩御に濱宮邸候・御大喪に列席され、任を全うされた。

●総本山本満寺第九十七世貫主上田日源現下晋山奉告式が厳修される。9月11日法燈を継承された上田日源現下晋山奉告法要が9月15日午後1時より本満寺本堂に於いて、門末参席のもと、古式に則り、厳肅に執行された。宗務総長・来賓・総代の祝辞の後、新貫主日源現下より決意の表白、そのお言葉に僧俗共に新たな決意が堂内に満ちた。式後、京都ホテルにて参會者一同の祝賀会が開かれ、和気あいあいのうちに散会した。ことに平成三年は日像菩薩六百五十遠忌の御正當を迎えられる。新貫主現下を先頭に門末一同、異体同心、円成にむけての決意が固まった。

●総本山第九十五世「勝竜院日淨聖人」遷化される。去る8月23日午前4時35分、総本山第九十五世勝竜院日淨聖人は、八

法華宗陣門流

●平成元年度中央学講習会が9月5・6日の両日、浜名湖館山寺ロイヤルホテルを会場に百三十名余の参加のもとに開催された。第一日は東洋大学教授河村孝照先生による「即身成仏の成語とその展開について」旭川光妙寺住職椿沢舜登上人の「大曼荼羅の講成とその書法」と題し各々講義された。第二日は東海教区寺院を巡拝し、別院本興寺にて成功裡に閉講式を迎えた。

●三宗統合学院学生講座開催される。11月18日、20日の3日間にわたり、法華宗陣門流宗務院内陣門講堂を会場に、三宗統合学院学生講座が開催された。統合学院は、毎年前後二期で開催され、三宗の青年僧を対象にした教学講習育成の場である。講師として、顕本法華宗教学研究所長窪田哲城上人が講義をされた。

日蓮聖人門下連合会

●目的 本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業 本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1. 祖廟護持の組織強化
2. 教育事業の提携
3. 布教の連合強化
4. 懇談会・研究会・講演会等の開催
5. 各種出版物の刊行
6. 海外布教の提携及び交流
7. 対外的な各種の運動
8. その他

●加盟団体

日蓮宗	法華宗本門流
顕本法華宗	法華宗陣門流
本門佛立宗	日蓮本宗
法華宗真門流	本門法華宗
国柱会	日本山妙法寺
京都門下連合会	

るつうぶん

●身延・京都の両理事会、北海道門連の結成、三十年の記念事業などビックなニュースが掲載された。

●昭和天皇の諒閣中、恒例の年頭広告にかえり門連三十周年祝賀として掲載させていた。

●大橋邦正先生には前・今号に健筆をふるっていただいた。三十年の本記録刊行が待ち遠しいとともに編集委員の責任も大い。

●今号の時報は盛り沢山、今後もしどしど貴重なものを写真入りで報道してゆきたい。各派のご協力をおねがいしたい。

●従地涌出欄は編集委員持ち回り執筆。短文でしかもピリッと辛口、するどい時評を目標に頑張っている。乞うご愛読を。

●編集委員の移動がありました。ごろうさまでした。